

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び 改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
1	○主体的に学ぶ授業づくり	生徒に思考力・判断力・表現力等の向上を目指し、確かな学力の向上を図ることができたか。(わかる授業の推進)	中間期	B	◇少人数のよさを生かし、個に対応した指導ができていない。教師一人、一回の研究授業と見守り授業を実施、指導力の向上に努めている。生徒は、個人の意見を主張したり、周りの意見と比較したりする力がまだ身に付いていない。 ◆今後も、研究授業・見守り授業を充実させ、生徒が主体的に学ぶことができる発問の仕方や生き生きとした活動ができるよう研究を進めたい。	教職員アンケート	2.9	10%	60%	20%	0%
						生徒アンケート	3.0	8%	88%	4%	0%
		保護者アンケート	2.9	22%	48%	26%	4%				
		目標値:教職員・生徒・保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇前期から継続し、個に応じた指導ができていない。自分の意見を書いたり、発言したりする意欲の高まりがみられる。資料を読み取ったり、そこから分かったことを適切に表現したりする力がまだ身に付いていない。 ◆資料を読み取ったり、長文を読解したりするために必要な知識を十分に身に付けさせ、多様な資料や問題に触れさせることが大切である。授業の中で、自分で考える時間と話し合いの時間を適切に設けていきたい。	教職員アンケート	3.2	0.2	0.8	0.0	0.0
						生徒アンケート	2.9	8%	71%	21%	0%
						保護者アンケート	3.0	18%	64%	14%	5%
	○基礎基本の定着	生徒は基礎基本が定着したか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇学習トライアルの成果は出ているが、長期間の定着につながっていない。 ◆授業や宿題等で、繰り返し学習できるような工夫をする。	教職員アンケート	3.0	10%	70%	10%	0%
						年度末	B	◇学習トライアルに意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ◆学習トライアルや小テスト等の積み重ねをしていくことが大切である。と考える。	教職員アンケート	2.7	0%
	○言語活動の充実	言語活動の充実と教育内容の確実な実施に努めることができたか。 目標値:教職員の80パーセント以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇各教師とも言語活動の充実を考慮しながら、授業をしている。また、研究授業を通して、より成果が上がるよう、協議を行っている。 ◆4を回答している教師が0である。言語活動の充実を意識した授業をしているが、教師の意図した反応が生徒から得られていない部分があると考えられる。各教科の授業だけでなく、短学活や集会、学校行事などすべての教育活動を捉えて、生徒の表現力を育てられる取組を行いたい。	教職員アンケート	2.9	0%	80%	10%	0%
						年度末	B	◇集会等で発表が意欲的になっていると感じる。 ◆毎月の俳句作りに努めたが成果がなかなか出ないのが現状。話し合い活動を適切に取り入れていきたい。学力向上部会で作成した話型のマニュアルを生かしていきたい。話し合い活動の確保を今後も継続して授業の中で行っていきたい。	教職員アンケート	2.9	10%
	○家庭学習の充実	家庭学習の習慣化に努めることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	C	◇生徒の半数が2か1と回答している。保護者へのアンケートでは1が22%ある。家庭での学習習慣が身に付いているとは十分に言えない状況である。ゲームやスマホ等に費やす時間が心配である。 ◆単元テスト等の前に行う学習や、普段の自主学習を充実させる。自主学習ノートの内容については、検討していきたい。宿題等の学習を終わらせてから遊ぶ習慣が定着するよう、保護者へ学年通信等で呼び掛ける。家庭学習の量の把握を今後も継続して行いたい。あわせてテスト前等にはゲームやスマホ等に掛ける時間も調査し、生徒の意識を学習に向けて高める工夫をしていきたい。	教職員アンケート	2.4	0%	40%	50%	0%
						生徒アンケート	2.5	4%	50%	42%	4%
保護者アンケート						2.4	9%	48%	22%	22%	
年度末			C	◇保護者の回答では数値がやや上昇しているが、家庭学習の習慣化や充実が十分であるとは言えない。提出の期日等をきちんと守らなければいけないという意識や、テスト等の目標に向かって頑張ろうという意欲の向上を図らなければいけないと考える。 ◆「日々の提出物チェックに加えて学習内容や学習時間等の定期的なチェックを行う」「生徒自身でのチェックや生徒同士でのチェックをする」等をして、提出物の期日等の約束を守る意識を高める。学年通信等での家庭への呼び掛けをする。	教職員アンケート	2.4	0%	40%	60%	0%	
					生徒アンケート	2.3	4%	29%	58%	8%	
					保護者アンケート	2.5	5%	59%	18%	18%	
○キャリア教育の充実	夢や希望をもちそれに向けて努力できているか。 目標値:生徒・保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	C	◇生徒は、将来の夢を持っている生徒とそうでない生徒が半々で分かれている。保護者の評価も1・2の評価が半数を超えている。自分の強みや興味があることに気付く機会が少なく、自分に自信がないため将来の夢が漠然としている生徒がいる。また、教師や保護者の一方的な押し付けになっていることがあるという現状も否めない。 ◆学級活動や道徳で、よりよい生き方や勤労の尊さ、個性の伸長について生徒の心に伝わる話をする。キャリア教育=進路学習ではなく、生徒が将来「どんな生き方がしたいのか」を前向きに考えられるような授業を意識して進めていく。	生徒アンケート	2.8	42%	17%	21%	21%	
					保護者アンケート	2.5	5%	40%	50%	5%	
		年度末	C	◇2年生の職場体験学習の実施により、将来の進路や勤労観を考えるきっかけにはなっている。しかし、生徒が将来希望する職種での体験学習が難しいところもあるので、目標が立てにくい。 ◆よりよい生き方や勤労の尊さ、自分の良さや強みを発見させ、生徒が将来について前向きに考えられるような体験活動を意識して進めていく必要がある。	生徒アンケート	2.8	42%	13%	25%	21%	
					保護者アンケート	2.7	5%	60%	35%	0%	
○読書活動の習慣化	読書の習慣化に努めることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	C	◇生徒、保護者共に、1・2評価が半数を占めている。それを裏付けるように、1学期の図書貸出冊数の集計から、半数の生徒が1冊も本を借りていないという現状が明らかになっている。朝読書以外に、読書をする機会がない生徒が多いことが問題である。 ◆朝読書で本に対する興味を持たせ、それを家庭での読書へつなげる方法がよいのではないかとと思われる。生徒たちの余暇の楽しみがゲームやSNSなどに集中し、活字離れに拍車がかかっている現状である。読書が好きであるという生徒からの発信や図書で紹介などを通して、読書の楽しさや面白さを実感させる取組が必要である。	教職員アンケート	3.0	10%	70%	10%	0%	
					生徒アンケート	2.6	33%	21%	21%	25%	
					保護者アンケート	2.5	5%	40%	50%	5%	
		年度末	C	◇中間期と比較すると、保護者の評価は上がっているが生徒のマイナス評価が増加していることが分かる。2学期末に実施した読書アンケートの結果では3分の2以上の生徒が高評価であったものの、評価が下がっている原因をつかむ必要がある。 ◆引き続き、読書の楽しさや面白さを実感する取組を継続させていく。まず図書室に足を運び、本に触れる機会を多く持たせるために、掲示物や図書館だよりを工夫し、情報発信をまめにしていくことが大切である。	教職員アンケート	3.2	20%	80%	0%	0%	
					生徒アンケート	2.4	21%	25%	29%	25%	
					保護者アンケート	2.7	5%	60%	35%	0%	
学校運営評議員の所見	学校として学力をつけることは、命題である。Cの項目には更に力を入れて頑張ってもらいたい。職場体験は生徒にとってよい体験となっている。ぜひ先生方に率先して本を読んでいただき、子どもたちに読書の魅力を知らせて欲しい。	学校の対応	学力向上については、引き続きコツコツとやるべきことを積み重ねていく。生徒のやる気に火をつけるような講演やワークショップなどの活動を積極的に取り入れることを検討していく。評価については数値目標を設定するなどして、あいまいさが無くなるよう工夫していきたい。								

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
2 豊かな心を育てる教育の推進	○心に響く道徳の授業づくり	道徳的判断力を高め、豊かな心情及び道徳的実践力の育成に努めることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇教材研究等をして計画的に授業に取り組んでいる。生徒が自ら考え、行動する力は育っていない。 ◆生徒が、授業内容や自らについて振り返ることができる時間を適切に設ける。	教職員アンケート	3.2	20%	70%	0%	0%
			年度末	B	◇生徒はそれぞれ優しい気持ちをもっているが、思いやりの心や粘り強く取り組む態度を上手く表現できていない場面が見られる。 ◆自分自身や周りの人のことを考える時間を適切に設けたい。	教職員アンケート	3.0	10%	70%	10%	0%
	○地域の素材や人材の活用	地域の素材や人材を活用した教育活動が推進できているか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇総合的な学習の時間で積極的な活用ができています。今年度は3年生の福祉学習で、地域のお年寄りからホウ酸団子づくりを学んだのも一つのよい事例となった。 ◆道徳のTTや他教科などで地域人材を活用した授業づくりを工夫したい。	教職員アンケート	3.4	50%	40%	10%	0%
			年度末	B	◇食育教室や総合的な学習の時間の海学習、福祉体験、句会ライブ、地域巡りなど、よく連携できて活動できているが、1学期に偏った傾向がある。 ◆今後も計画的に運用したい。	教職員アンケート	3.1	30%	40%	20%	0%
	○あいさつの展開	生徒会を中心として、地域全体で取り組むあいさつ運動を展開することができたか。 目標値:教職員、保護者、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇集会やあいさつ運動、生徒総会等で生徒の意識が向上するような取組を行うことができた。意識の高まりからか、あいさつの大切さを口にする生徒は多い。 ◆指示を真面目に聞く生徒が多く、若干の向上も見られるが、形式的なあいさつになっている部分も感じられる。そのため、あいさつ運動への取組やその成果が家庭や地域に広がっていない。入試における面接や職場体験学習等、あいさつのもつ意味や重要性に触れる時間もあるので折に触れ、考えさせたい。	教職員アンケート	3.0	10%	80%	10%	0%
						生徒アンケート挨拶	3.2	38%	46%	17%	0%
						保護者アンケート挨拶	3.1	36%	41%	18%	5%
			年度末	B	◇あいさつ運動等、新生徒会でも引き続き、あいさつの向上を目指して活動するようになっている。 ◆中間期と同様に形式的になっており、生徒によって差があるように思う。また、あいさつ運動を行ってみて、生徒会役員自体も様々な感想をもっているようである。給食時の放送等も利用しながら、生徒自身が自分たちのあいさつを振り返り、評価・改善できるようにしていきたい。	教職員アンケート	3.2	20%	80%	0%	0%
						生徒アンケート挨拶	3.0	25%	54%	21%	0%
						保護者アンケート挨拶	3.1	23%	64%	14%	0%
	○インクルーシブ教育の推進	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内推進体制の強化、充実を図ることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇生徒の情報の共有がなされ、提示した事例をもとに、教師一人一人が特別支援教育を意識した授業実践を行えた。 ◆つまづきのある生徒への支援の在り方についての職員アンケートをもとに、教育センターの専門家にアドバイスを受ける機会を持た。今後もその共通理解をもとにして授業実践に生かしていきたい。	教職員アンケート	3.2	20%	80%	0%	0%
			年度末	B	◇授業におけるよりよい支援は進めていたが、進路実現に向けてどんな支援が必要なのか、生徒の情報共有を積極的に行う。 ◆巡回相談など専門家にアドバイスを受けたので、家庭とより連携し共通理解を行い支援に生かしていく必要がある。	教職員アンケート	2.7	0%	70%	30%	0%
	○人権を尊重する心の育成・いじめ防止	「学校いじめ防止対策基本方針」の周知と具現化に努め、いじめは許さないという強い気持ちを育てることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇毎月の生徒への学校生活に関するアンケートや全教職員での教育相談が、個人や集団の把握・理解につながっている。生徒理解が進んでいると考えられる。 ◆今後も教育活動全体を通していじめを許さないことを指導していく。	教職員アンケート	3.3	30%	70%	0%	0%
			年度末	B	◇毎月の生徒への学校生活に関するアンケートや全教職員での教育相談等、継続した取組ができています。 ◆常日頃から、子供たちの会話や行動に注意し、見逃しを作らない姿勢を今後も継続していきたい。また、アンケートや教育相談にプラスした更なる取組を工夫していきたい。	教職員アンケート	3.1	10%	90%	0%	0%
	・人権を尊重する心の育成	全教育活動の中で人権尊重の精神を養い、「差別しない」「差別に負けない」「差別を許さない」生徒を育成することに努めることができたか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇4を答えた教師が0%である。人権強化月間だけでなく、年間を通して人権教育に取り組む必要がある。 ◆道徳等でも人権について扱っていききたい。2学期に行われる校区別人権懇談会に向けて、全校体制で計画的に取り組むたい。また、教職員の人権についての研修も行いたい。	教職員アンケート	2.9	0%	90%	10%	0%
			年度末	B	◇人権集会や人権同和教育懇談会を行い、生徒たちが人権について意識できる取り組みを行うことができた。しかし、目標値には達していない。 ◆人権強調月間に集中的に取り組むことができたが、連続性に欠けている。今後も継続して、道徳でも積極的に人権について扱い、人権尊重の基盤となる心を育てたい。	教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%
	・人権・同和教育の視点に立った学級経営	相手の立場を理解し、互いを思いやる暖かい人間関係を構築することができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇普段の学校生活の中の何気ない発言に対して、生徒に考えさせる取り組みをしており、A評価となった。しかし、生徒の13%、保護者の4%が2と評価しており、さらに人間関係づくりの強化の必要性を感じる。生徒・保護者と教職員とで、意識のずれが見られる。 ◆生徒が自分自身の言動を振り返る活動を継続させたい。2学期には運動会や文化祭などの学校行事があり、学年を超えて活動する機会も多くなる。その活動の中で互いのよさを認め合える人間関係づくりや、思いやる心を育ませたい。	教職員アンケート	3.0	0%	100%	0%	0%
						生徒アンケート	3.2	33%	54%	13%	0%
保護者アンケート						3.4	43%	52%	4%	0%	
年度末			B	◇教職員、生徒は4と答えた割合は増加した。しかし、全体的に2と答えた割合が増加し、目標値に達することができなかった。互いを思いやることができている生徒もいるが、まだ十分とは言えない。互いに歩み寄る意識が低く、よいコミュニケーションが取れていないからだと思う。 ◆温かい人間関係を構築するために、コミュニケーション能力を高める取組が必要であるとする。学校生活の中の様々な行事や日々の活動を通して、生徒同士が温かい人間関係を構築することができる場を作りたい。	教職員アンケート	3.0	10%	70%	10%	0%	
					生徒アンケート	3.2	42%	38%	21%	0%	
					保護者アンケート	3.3	32%	64%	5%	0%	
学校運営評議員の所見	あいさつについては来校するたび、元気にあいさつができており、すばらしい。卒業しても地域等であいさつが続けられるとよい。評価は下がったものもあるが数値としてはほとんど横ばいなので、安心していい。	学校の対応	引き続き、生徒の様子をきちんと把握し、いじめの早期発見に努めていきたい。また、いじめが起こらないよう豊かな心情を育てていきたい。数値がほとんど変わらないとはいえ、下がった項目も多い。取組がマンネリにならないよう、更なる向上を目指した工夫をしていきたい。								

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
3 たくましい心身を育てる教育の推進	○部活動の活性化	挑む心を育むたくましさ(意力・体力)の強化に努めることができたか。	中間期	B	◇部活動においては、「勝つことで意欲が高まる」という側面はあると思う。生徒には体力を高める取組を継続(そのチャンスを見つける)させ、自信を持たせて部活動に取り組みさせたい。 ◆生徒が、自分に合った目標を設定し実践していく。半年後、一年後の自分を想像して、主体的に行動できる生徒を育てることが大切(指導者の資質)。 ◇学校体制で取り組み出場した県駅伝競走大会によって、生徒の走ることへの抵抗感は緩和されてきたように感じる。また、継続すれば向上が期待できることも理解できたのではないかと思う。	教職員アンケート	2.8	0%	80%	20%	0%
						保護者アンケート	3.3	50%	36%	9%	5%
		目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◆生徒が技能の習得と体力の向上、双方で自分に合った目標を設定し実践していく姿勢を育てたい。半年後、一年後の自分を想像して、主体的に行動できる生徒を育てることが大切であり目標として取組を継続したい。	教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%
						保護者アンケート	3.5	59%	32%	5%	5%
	○生徒指導の徹底 ・いじめ・不登校の根絶	一人一人の理解に努め、問題の早期発見、早期対応を図ることができたか。	中間期	A	◇学校生活アンケート、教育相談の実施、継続等で、いじめや生徒の悩み、問題行動等の早期発見、早期対応を目指してきたことがある一定の評価につながった。 ◆今後も継続していくこと、教師それぞれが更に生徒理解に努めることが重要である。	教職員アンケート	3.6	60%	40%	0%	0%
						目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇学校生活アンケート、教育相談の実施、継続等で、いじめや生徒の悩み等に対する早期発見、早期対応につながっている。 ◆今後も継続していくこと、教師それぞれが更に生徒理解に努めることが重要である。普段の何気ない生徒の行動や言動から、ちょっとした生徒の異変や違和感を感じられる、そんな感覚を磨いていきたい。	教職員アンケート	3.2
	・学校生活の充実	学校生活を楽しく送ることができているか。	中間期	A	◇おおむね楽しく学校生活を送ることができている。欠席がほとんどないことから、それが伺える。しかしながら、不安を抱えている生徒が存在しているということを忘れてはならない。生徒の内面の不安を取り除き、安心して学校生活が送れるように気を配ることが大切である。 ◆毎月の教育相談や学校生活に関するアンケートを継続、充実させて生徒が本音を出せる環境を整える。今後も一人一人を大切に教育活動を継続させる。	生徒アンケート				3.1	33%
						保護者アンケート	3.4	48%	48%	4%	0%
		目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇中間期と同様、大多数の生徒は楽しい学校生活を送っている。保護者の評価をみても生徒の評価数値よりも高くなっており、良好な様子が見える。但し、「あまり思わない」と答えた生徒の割合が2倍になっていることから、より生徒に寄り添った配慮が必要であることを認識するとともに、危機感を持たなければならない。 ◆年間を通して行う教育相談や学校生活に関するアンケート以外にも、日々行っている生徒情報の交換を充実させていく。生徒たちの普段の学校生活の細かな様子や生徒のつづやき等を拾い上げる機会を多く持つ。生徒の変化に気づき、早めに対処できる教師集団でいたい。	生徒アンケート	3.2	33%	50%	17%	0%
						保護者アンケート	3.5	55%	41%	5%	0%
	○命を守る教育の徹底	「自分の命は自分で守る」という意識を高め、危機意識や安全確保のために具体的実践力を育てることができたか。	中間期	A	◇昨年度と同様で教員よりも生徒の評価は高い現状である。生徒自身は実践力が高いと感じているが、普段の学校生活を見てみるとそうとは思えない場面が見られる。 ◆避難訓練や防災教育とも関連付けながら指導を進めていくと共に長期休業前や学校生活での指導場面を利用し、具体的な例を挙げながら指導を継続していく。	教職員アンケート	3.4	40%	60%	0%	0%
						生徒アンケート	3.5	58%	38%	4%	0%
目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA		年度末	A	◇教科を越えて横断的に学習している。避難訓練の後に、非常用持ち出し袋の中身を生徒同士で自主的に確認する姿が見られるなど、生徒の意識の高まりも感じられた。交通安全のルール等、良く守られている。また、不審者対応などその都度的確に対応できている。 ◆今後もあらゆる場面を想定して指導していきたい。	教職員アンケート	3.2	20%	80%	0%	0%	
					生徒アンケート	3.5	63%	29%	4%	4%	
○健康教育の推進	家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。	中間期	B	◇継続した指導を行っているが、変化はあまり見られない。早寝・早起き・朝ごはんの大切さは分かっているものの、行動の変容まではつながっていないことが考えられる。生活習慣については、家庭の協力が必要であると考えられる。 ◆昨年度よりおにぎり弁当の日を実施している。食育指導と関連付けながら、朝ごはんの大切さを指導していきたい。睡眠時間の確保については、スマホ・ゲーム等の使用状況とも関連があるので生徒指導と協力しながら進めていく必要がある。保護者との連携については、学校からの啓発活動で終わってしまいがちであるが、懇談会や保護者の来校時を利用して根気強く発信していく必要がある。	教職員アンケート	3.1	30%	50%	20%	0%	
					生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.9	17%	54%	29%	0%	
					生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.3	33%	58%	8%	0%	
					保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.7	30%	22%	35%	13%	
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇定期的な歯科指導・全校給食・おにぎり弁当の日・生徒保健委員会等の継続した活動の中で生徒には、啓発活動や指導を行っている。しかし、家庭と連携し、定着させるまでの実践が行えていない現状がある。また、生徒自身は、習慣化できていると感じているが、保護者や教員から見るとまだ改善の余地があると感じるところに意識の差がある。 ◆次年度も継続した指導を続けることから、生徒を通して健康教育の大切さを発信したり行動の変容が保護者に伝わるよう指導を工夫し、たより等で発信していきたい。特に睡眠については、生徒自身が時間の使い方やメディアとの付き合い方を考えていけるような教材づくりや指導の工夫を行っていく必要がある。	教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%	
					生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	3.0	25%	50%	21%	4%	
					生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.3	29%	67%	4%	0%	
					保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.9	27%	41%	23%	9%	
保護者アンケート歯磨き、手洗い	年度末	B	◇継続した指導を行っているが、変化はあまり見られない。早寝・早起き・朝ごはんの大切さは分かっているものの、行動の変容まではつながっていないことが考えられる。生活習慣については、家庭の協力が必要であると考えられる。 ◆昨年度よりおにぎり弁当の日を実施している。食育指導と関連付けながら、朝ごはんの大切さを指導していきたい。睡眠時間の確保については、スマホ・ゲーム等の使用状況とも関連があるので生徒指導と協力しながら進めていく必要がある。保護者との連携については、学校からの啓発活動で終わってしまいがちであるが、懇談会や保護者の来校時を利用して根気強く発信していく必要がある。	保護者アンケート歯磨き、手洗い	2.8	22%	43%	26%	9%		
				教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%		
				生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	3.0	25%	50%	21%	4%		
				生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.3	29%	67%	4%	0%		
○防災・減災教育の推進	東日本大震災から学ぶ、生きる防災・減災教育の推進を図ることができたか。	中間期	A	◇避難訓練に取り組む生徒の意識は高い。家庭科や理科等の教科指導の中や学活でもしっかり指導することができた。防災・減災教育に関する掲示等も工夫できた。 ◆避難訓練の意味を今後もしっかり生徒に確認させたい。避難訓練の回数についてはもう少し増やす方向で計画したい。その際に、予告なしの避難訓練の実施や、登校中、部活動中などの様々なケースを想定した避難訓練を今後も積極的に取り入れたい。	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%	
					生徒アンケート	3.7	75%	21%	4%	0%	
					保護者アンケート	3.1	27%	55%	18%	0%	
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇予告なしの避難訓練の実施や、登校中、部活動中などの様々なケースを想定した避難訓練を今後も積極的に取り入れ計画的に防災学習が進められ、防災学習のたくさんの機会が得られた。防災学習に取り組む生徒の意識も高い。 ◆短期間に集中した訓練を取り入れたい。また、地域や小学校と連携した訓練も計画したい。	教職員アンケート	3.3	30%	70%	0%	0%	
					生徒アンケート	3.8	79%	21%	0%	0%	
					保護者アンケート	3.1	29%	57%	14%	0%	
学校運営評議員の所見	全員が元気に登校できており、不登校の生徒がないというのは大事なこと。今後もよい取組は継続してほしい。県駅伝の参加が生徒たちにとってよい経験となっている。早寝・早起きと朝ごはんを別に評価するとよい。	学校の対応	学校生活を楽しく送っているかの質問に対して1の項目の数値が上昇しているのは良かった。さらに2の項目の生徒も数値がよくなるように引き続き取り組んでいきたい。生徒にたくさんの感動と充実感を感じる機会を設定していこうと思う。時間観念の「早寝・早起き」、食育の「朝ごはん」との切り離しについては検討をしていく。								

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)				
								4	3	2	1	
4 特色ある学校づくり	○環境教育の推進 「海学習」の充実・深化	「海学習」の充実・深化を図りながら、家庭・地域と連携した環境教育を推進することができたか。 目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇海学習は、学年の系統性を図ること、3年生の活動の効果や効率化等を考えて、昨年度の計画から一部改めた。講師との事前の打ち合わせを密にしたり、生徒に活動しやすい場となるように工夫してきた。天候不良等で、1学期の予定を消化し切れていないことが残念である。 ◆生徒にとって「海学習」を「環境教育」につなげていくためには、現在の活動にプラスして、学校としても一考の必要があるかも知れない(「海学習」と「環境教育」が生徒の中で更にリンクさせていく必要がある)。	教職員アンケート	3.0	20%	60%	20%	0%	
						生徒アンケート	3.5	63%	29%	8%	0%	
						保護者アンケート	3.5	55%	45%	0%	0%	
			年度末	A	◇天候不良等で、1学期の予定がずれ込んだが、何とか消化できた。10年以上の継続、黒潮研究所との連携、文化まつり等での研究結果の活動報告などで生徒の環境に対する意識も向上しているように思う。※小学生にもっともっと海学習の魅力や必要性を伝えられたら・・・と思う。 ◆「海学習」と「環境教育」を更につなげていくために、地域の宝(豊かな海や環境)を知ることだけでなく、ビニール類やプラスチックごみ等の回収やその量の測定を行うなど、現在地球規模で進み憂慮されている環境問題等につなげていくことも考えられる。	教職員アンケート	3.2	20%	80%	0%	0%	
						生徒アンケート	3.7	75%	21%	4%	0%	
						保護者アンケート	3.6	59%	41%	0%	0%	
	○ボランティア活動の推進	地域の一人としてのボランティア活動の推進を図ることができたか。 目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇委員会活動の一環として昼休みを利用し、ボランティア活動を行っており、生徒の参加率も高い。活動中もよい表情で体を動かしている場面が見られた。 ◆活動が形式的になっている部分を感じられ、ボランティア活動を通して学んだことが他に生かされていない面もある。例えば学校行事における準備や片付けでの生徒の動きとしては、教師に任せきりになる面が強い。目配りや気配りをして、進んで他のために体を動かせるよう、少しでも成長させたい。	教職員アンケート	2.9	10%	70%	20%	0%	
						生徒アンケート	3.2	25%	67%	8%	0%	
			年度末	A	◇生徒・保護者の評価が向上した。2学期は地域で協力する学校行事や地方祭り等、地域の一人であることを意識する機会が多くあったことも考えられる。 ◆委員会活動の一環としてボランティア活動を行うことはなかった。生徒会活動の中にもボランティア活動をする機会を持ればよいが、そこまでの余裕を持っていないことも現実である。	教職員アンケート	2.6	0%	60%	40%	0%	
						生徒アンケート	3.6	58%	42%	0%	0%	
学校運営評議員の所見					学校の対応	海学習については、生徒も本校の伝統を自覚し、プライドをもって活動に取り組んでいる。更なる発展を目指し、新しい環境問題等につなげていく学習を検討していきたい。						
5 教職員の資質の向上	○校内研修の充実	教育活動や校内研修を充実させ、教育専門職としての資質と指導力向上に努めることができたか。 目標値：教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇平均値3.1で、A評価にあと一歩である。おおむね教育専門職として指導力向上に向けて努力できた。 ◆授業改善を柱に今後も研究授業の話し合いを充実させ、生徒にとって分かりやすい教育活動を推進する。	教職員アンケート	3.1	30%	50%	20%	0%	
						年度末	B	◇平均値3.0で、A評価にあと一歩である。おおむね教育専門職として指導力向上に向けて努力できた。 ◆今後も確かな学力と生き抜く力を身に付けた生徒の育成を目標に生徒が主体の授業改善を行い、教育活動を推進する。	教職員アンケート	3.0	10%	80%
			中間期	A	◇平均値3.4なので、専門職としての力量を高めるためにそれぞれの先生方が自己研鑽できた。 ◆積極的に研修会に参加できたという意見があったが、情報を他の職員に広める手立てに工夫が必要である。	教職員アンケート	3.4	40%	60%	0%	0%	
						年度末	B	◇平均値3.1で、あと一歩A段階に届かなかった。専門職としての力量を高めるために研修会に参加し自己研鑽できた。 ◆研修会に参加した新しい情報を、他の職員に広める手立てを考えて実践する。	教職員アンケート	3.1	20%	70%
	○教職員の信用保持	服務規律の遵守し、信用保持に努めることができたか。 目標値：教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇県内や全国で起きた事例を朝礼で共有し、服務規律遵守を意識できたから8割の職員が「そう思う」の評価となっている。 ◆職員室のコミュニケーションを高め、お互いを理解し合う努力と組織力を向上できる集団としていきたい。	教職員アンケート	3.8	80%	20%	0%	0%	
						年度末	A	◇A評価が少し減少したが、ほぼ規律の遵守に努めることができた。車の運転等、一人一人の意識が高く、無事にここまで問題なく経過している。 ◆引き続き、職員室のコミュニケーションを高め、お互いを理解し助け合い、組織力を生かした集団となるよう努力していきたい。	教職員アンケート	3.6	60%	40%
	学校運営評議員の所見					学校の対応	教職員の信用保持について、評価の数値もよく安心している。					
	6 家庭・地域との連携	開かれた特色ある学校づくり ○家庭や地域との連携の強化	学校の取組みに対する情報発信と情報受信に努めることができたか。 目標値：教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇各種便りやホームページ、まちcomiメールで積極的に発信し、学校の取組や生徒の様子を逐次知らせることができた。 ◆引き続き、内容の充実を図り、保護者や地域に情報発信を続けていきたい。	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%
							保護者アンケート	3.4	48%	43%	9%	0%
				年度末	A	◇ホームページは毎日UPLしており、日々の生徒の様子や今後の予定などを知らせており、充実したものとなってきている。 ◆学校だよりや学級だよりが生徒の声を届けるものとなるよう努めていきたい。	教職員アンケート	3.4	60%	20%	20%	0%
保護者アンケート							3.3	41%	50%	9%	0%	
学校運営評議員の所見					学校の対応	ホームページも毎日閲覧しているが、日々更新されていてよい。今後も楽しみにしている。						
学校運営評議員の所見					学校の対応	全体的によい数字になっている。今後も生徒が楽しく生き生きと活動できる学校であってほしい。						
学校運営評議員の所見					学校の対応	評価項目の内容についてはあいまいさがないように、表現等の工夫をしていきたい。評価の低い項目については、全職員で課題意識を共有し、対応策を検討していきたい。						